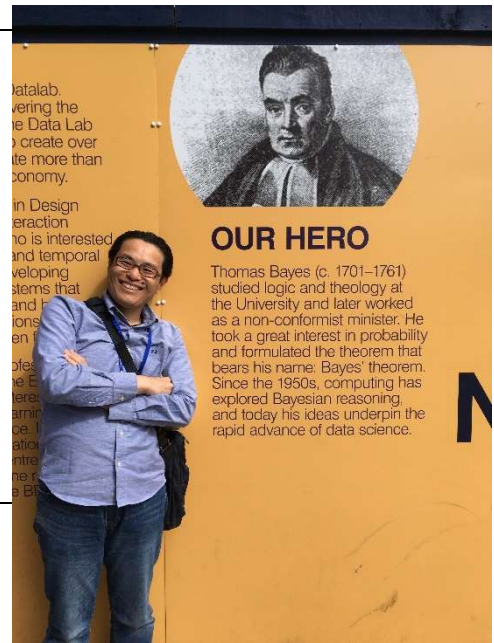


中妻照雄 教授

専門： 計量経済学 ベイズ統計学

(インタビュアー：染野哲哉)



Q 先生のご専門について教えてください。

A 私の専門は、**ベイズ統計学**と言われる分野です。

皆さんが日吉で習った統計学とは、少し流儀が違いますが、機械学習などの分野では広く使われています。今私が研究していることは、株式市場のデータ分析です。ミリ秒単位で行われる取引データを用いて、株式市場の価格形成のメカニズムを分析しています。

Q 先生の学生時代について教えてください。

A 私はもともと工学系出身で、プログラミングや数学、他にもフィールドワークの実践までしていましたね。工学系の中でも、経済学に近い分野にいましたので、経済学の授業を取るうちに、経済学、特に**計量経済学が楽しい**と思い、大学3年生のときに、大学院に行くことを決意しました。計量経済学は

とにかく勉強していて、楽しいと思えましたね。そしてさらにアメリカで勉強したいと思い、ラトガース大学で PhD を取りました。

Q 先生の教育理念を教えてください。

何よりもまず自主的にできないと駄目だということです。大学生になって、言われたから仕方なく勉強するでは意味がありません。ですから、教育理念としては、**自主的、自発的に**ということです。福沢先生の言葉を借りれば、「**独立自尊**」でできないと駄目だということです。

Q ゼミを志望する学生に求めるものは何ですか？

A 自主性もちろん大事ですが、実力が伴っていなければ駄目です。経済学部のカリキュラムはとても良くできています。皆さん、1年生のうちに統計学は履修しているはずです。欲を言えば、2年生のときに計量経済学概論や数学の授業をいくつか取っておいてほしいです。このようにカリキュラムをこなすことで、しっかりと**準備してきてほしい**です。これはいつも説明会や面接で言っていることでもあります。

もう一つお願いしているのは、**視野を広げてほしい**ということです。今はインターネットを通じて、多くの情報を集めることができます。例えば無料で見られるオンラインセミナーもあります。このようにして、自分の興味ある分野・業界にアンテナを張って、いろいろ情報を集めてほしいです。

Q 先生がゼミ選考で見ている点を教えてください。

A 私が見ているのは、**学生がしっかりと自分で勉強できるか**です。それができるためには、いくつかの要素があるのですが、まずは先ほども挙げた**自発性**ですね。自分で目標を立てて、それに向かって進んでいくことがこの人は出来るのかというところを見ています。学生の方からどんどん私にアプローチしてくるような人が欲しいですね。2点目は**学力**ですね。学力がないと入ってきてもついていけません。ですから成績表は見ています。だいたいの場合で成績は正直ですね(笑)。ですが、中にはやりたいことが決まっていて、授業がおろそかになって成績が悪い学生もいます。そういう尖った学生はゼミに入ってから伸びるので、面接で話してみて、取ることはあります。ですから、GPA 至上主義ではないです。つまり**目的意識をもって、自分で動ける人**が欲しいですね。

Q ゼミではどのようなことをしていますか？

最初に3年生にやってもらうのは、ローテーションを組んで、毎週**1本論文**を選んで、それを**全体の前でプレゼン**してもらうということです。中妻ゼミの目標は、年1本は論文を書くということです。そのためには**学術論文を書くスキルと計量経済学やファイナンスの知識**が必要です。それを得るためには、プロが書いた論文を読むのが一番よいです。この作業を通じて、論文を書くには、**どういう知識が必要で、自分には何が足りないのかがわかります**。自分には何ができないのかということを知ってもらい、それについて勉強していけばいいわけです。輪読は意味がないと思うのでやりません。

Q 中妻ゼミは、就職に強いという評判がありますが、それはなぜだと思いますか？

A ゼミ活動を通じて、**自主的に学ぶ姿勢、プレゼン力**が鍛えられているというのはあると思います。また学んでいる内容がファイナンスというのもあるでしょうね。また今年で17期になるので、この歴史の中で、

中妻ゼミの、特に金融業界において、レピュテーションやOB・OGのネットワークができているというのがあります。

Q 最後に2年生にメッセージをお願いします。

A コロナで大変な状況ですが、きちんと勉強して、ぜひ中妻ゼミにきてください。

【編集後記】

今回は、経ゼミの中でも難関ゼミとして評判のある中妻ゼミの中妻先生にインタビューをさせていただきました。インタビューを通じて、中妻ゼミ生は、自主的に学ぶ意思があり、また学ぶことできる能力もある、だから就職活動でも強いと言われるのだと思いました。自分もしっかりと勉強しなくてはと思いました汗。この記事が、ゼミ選びの参考になるだけでなく、皆さんの学生生活を送る上での先生からのアドバイスとして受け取っていただけたら幸いです。

中妻先生、インタビューありがとうございました。

2020年 6月 29日 染野哲哉